

ひゅーまんらいつ



「イランカラプテ」からはじめよう！

アイヌ民族 …… 日本列島北部周辺、とりわけ北海道の**先住民族**。日本の多数者である和人とは異なる言語や文化、歴史を持つ。「アイヌ」は「人間」を意味するアイヌ語。

アイヌ民族は狩猟や漁労を中心とする暮らしを営む中で独自の言語であるアイヌ語や、自然との共生を基本とした信仰や風俗習慣、祭りや家庭での行事などに踊られる「古式舞踊」、独特の「文様」による刺繍、木彫り等の工芸など、固有の文化を発展させてきました。

しかし、明治政府の同化政策によって環境が一変します。

- ・アイヌの土地の没収
 - ・日本語の習得を奨励
 - ・アイヌの風習を禁止
 - ・鮭漁、鹿猟を禁止
- などの**同化政策** (アイヌ民族を和人に)



アイヌ民族に対する抑圧・搾取に代わり「差別」が生じ、大きな社会問題に (学校、就職、結婚など)

毎年秋に大量に川に遡上してくるサケはアイヌにとって1年分の食料になるほか衣服や靴の材料。暮らしを支える大切な魚として「カムイチェプ＝神の魚」と呼ばれていた。しかし漁が禁止され、生活の糧を奪われた多くの人々が飢餓に見舞われ、農場などに雇われて働くようになり、アイヌの社会を大きく変えた。現在でも、川でのサケの捕獲は、原則、禁止。先住権の回復に向けて裁判が続いている。

参考：NHK 北海道 NEWS WEB

和人からの**民族差別**が激しくなり、アイヌ民族として生きることが非常に難しい社会になりました。この結果、アイヌであることを隠し (アイヌであることから逃れ)、日本人として認められるように、伝統的なアイヌ文化を身につけないという道を選んだアイヌ民族が多くいました。

また、アイヌ語にも大きな影響を与えました。アイヌ語は日本語とは別の言語です。アイヌ語に文字はなく口頭でのみ使われてきました。そのため、同化政策によりアイヌ文化の十分な伝承がなされず、継承することが困難になりました。

2019年(令和元年) 「アイヌ民族支援法」(アイヌ新法)

初めて「先住民」と明記!

→アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活することができ、**尊重される社会を実現**することを目的
アイヌの人々への、**アイヌであることを理由とした差別の禁止**

ウポポイ (民族共生象徴空間)

- ・アイヌ文化の復興・創造等の拠点
- ・先住民族の尊厳を尊重し、差別のない社会を築いていくための象徴空間



<つなぐ！アンネのバラプロジェクト！>

～植え替え作業～

昨年度、2月に挿し木をしたアンネのバラをプランターに植え替えました。約10本の挿し木をして発根したのは5本！これからはプランターで育て、外部に引き継げるような苗へと育てていきます。

引き続きご注目ください！



～青空教室～

1年生を対象にアンネのバラに関する青空教室を行いました。ユダヤ人迫害の歴史や『アンネの日記』の概要、そして、津島分校とアンネのバラの関わりについて学びました。風が少し強かったですが、満開のアンネのバラのもとで行われる授業は新鮮で、近くで観察をしながらアンネのバラへの理解を深めることができました。



☆今年度の人権委員☆

1年間よろしくお願いします！

例年より多くの花が咲きました！

